



未来の子どもたちに**安全な「食」**を残すために
私たち大人が何をすべきか考えてみませんか？

未来の子どもたちのために

映画「食の安全を守る人々」を

鑑賞しよう！

食の安全 を守る人々



農薬の大幅規制緩和、ゲノム編集食品の流通——
わたしたちのカラダや食の未来は？
メディアが伝えない食の裏側に迫るドキュメンタリー

監督・撮影・編集：原村政樹
プロデューサー：山田正彦、語り：杉本彩 音楽：鈴木光男 企画・制作：一般社団法人 心土不二 配給：きろくびと
2021年/日本/カラー/102分 kiroku-bito.com/shoku-anzen

アグリビジネスは日本に幸せをもたらすのか——それとも日本は世界の潮流に逆行しているのか？
日本で、海外で農と食の持続可能な未来図を描く人々

種子法廃止、種苗法の改定、ラウンドアップ規制緩和、そして表記無しのゲノム編集食品流通への動きと、TPPに端を発する急速なグローバル化により日本の農と食にこれまで以上の危機が押し寄せている。しかし、マスコミはこの現状を正面から報道することはほとんどなく、日本に暮らすわたしたちの危機感も薄いのが現状である。

この趨勢が続けば多国籍アグリビジネスによる支配の強まり、食料自給率の低下や命・健康に影響を与えることが懸念される中、井ノ口で元農林水産大臣の山田正彦が、長年、農業をテーマに制作を続けている原村政樹監督との二人三脚で撮影を進め、日本国内だけでなく、アメリカでのモンサント裁判の原告や、子どものために闘う女性、韓国の小学校で普及するオーガニック給食の現状など幅広く取材。果たして日本の食の幸せな未来図はどこに…。

2020年 日本映画復興奨励賞受賞、
キネマ旬報文化映画ベスト・テン第7位の
「タネは誰のもの」の元となった、
CFでも話題を呼んだドキュメンタリー！

2020年 第94回キネマ旬報文化映画ベスト・テン第7位に選出され、同年の第38回日本映画復興奨励賞を受賞した『タネは誰のもの』のベストとなり、クラウドファンディングでも1600人以上から支援が集まり話題を呼んだ本作。山田正彦プロデューサーと原村政樹監督のタッグに加え、女優で作家、ダンサーの杉本彩がプレゼンテーションを担当。本作と本作を通して、農と食のあるべき姿が見えてくる。

監督・撮影・編集：原村政樹 / プロデューサー：山田正彦 語り：杉本彩 音楽：鈴木光男
取材協力：原村政樹 映像技術：李恩承/青木文彰 監修：丸山昇 ポスプロデューサー：原田博樹 製作デスク：遠藤英美恵
企画・制作：一般社団法人 心土不二 予告編制作：大友瑛平（一般社団法人 SEA）原任実理：松江光二 配給：きろくびと
©2021 by JTSU, Ltd. All Rights Reserved. kiroku-bito.com/shoku-anzen

7月2日(金)より、ヒューマントラストシネマ有楽町、
アップリンク吉祥寺にて公開！他全国順次！

詳しくは 「食の安全を守る人々」 で検索！

鑑賞チケット
お問い合わせは
労連で受付けています！